
「アバター」再考

岳石祭人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「アバター」参考

【ZPDF】

2021

【作者名】

岳石祭人

【あらすじ】

映画「アバター」の世界観について改めて考えてみました。私は物語も「傑作」だと思っています。

(前書き)

ブログで書けばいいのだけれど、SFやファンタジーの創作のヒントにもなると思いつので、ひらひら。

アカデミー賞の作品賞も監督賞も逃してしまったジョーヌズ・キャメロン監督の「アバター」。

3Dの映像は「凄い！」と評価されるも、内容に関しては浅いだの薄いだの単純だのパクリだのとさんざんな言われ方をして、まるつきり評価されていないのが私はかなり不満で、既に劇場公開も終了し、DVDが発売されるということで、内容について私の考えた事を書こうと思います。既に多くの人が観たということで「観た」ということを前提に書くのではまだ観ていない人は読まないでください。もつたないので。

· · · · ·

「映画脚本」としてのストーリーについてもいろいろ誉めたいのだけれど、それは置いておいて、「世界観」について書きたいと思います。

私は「アバター」はそれこそキューブリックの「2001年 宇宙の旅」と並べて語られるべき傑作だと思うのですが、映画全体で一見単純に見える「自然破壊への警鐘」「物質的繁栄のみを追い求める人間の醜さ」「異文化を認め畏怖する敬虔な心」といったテーマですが、もちろんそのまま受け止めてもいいのですが、「アバター」の世界の構造はそんなに単純な物ではないと思います。

ラスト、主人公は「精神的な世界」を通つて新たな肉体（？）に転生を試みるわけですが、

これは単純な「自然への帰還」「精神文化への帰依」とは言えないのではないか??と思います。

映画のストーリーは豊かな自然の中で精神的なつながりを重んじる無垢な現地人の生活を圧倒的な暴力で傍若無人に破壊していく「文明の進んだ」地球人の姿を醜く描いていますが、

青い惑星の「命の木」(名称は覚えてない。『めんなさい』)に集積されて、生き続けている、すべての先人たちの魂というものは、本体である肉体が滅んでも魂=記憶が記録されている、

それって、

コンピューターと似ている、と言つか、同じだと思いませんか?惑星が生きていて、「精靈」によつて惑星上の生き物と情報交換するというのもインターネットそのものですし、原住民がドラゴンと「コネクト」して特別の結びつきを得る、という方法もUSB接続の認証コード設立みたいでしきう?

このように「青い惑星」の世界觀というのは我々現在の科学技術、コンピューター技術をヒントにデザインされているのではないかと思われます。

ラスト、主人公は「無垢な自然の」青い惑星の原住民に転生してそこで生き続けることを試みますが、

そもそもそれを可能にしているのが「アバター」という地球人の進んだ科学技術であり、

それがアクセスして入つていける世界というのは、我々の科学技術と同じ線の上にあつて、

我々のコンピューター技術をお手本にデザインされたと思われる世

界観というのは、

実は、

我々の科学技術の先の延長線上にある世界ではないのか？、
と思うのです。

一見なんの文明も持たない野蛮な生活をしている彼らですが、彼ら
にとつては快適そのものの環境で、美しい大自然の中で冒険の日々
を送り、命の木にコンタクトすることで過去の膨大な精神＝智慧、
体験、物語に接することもでき、これはまさに理想郷の生活ではな
いか？

つまり、我々のコンピューター文明が目指すべき未来の理想的な姿
がこの「青い惑星」の世界そのものではないか？と示唆しているよ
うに私は感じたのですが、いかがでしょう？

「野蛮人」と馬鹿にして破壊の限りを尽くしていた地球人が、実は
彼らこそ何も分からぬ野蛮人そのもので、未来の理想の世界を破
壊していた「未開の野蛮人」そのものだった、とも見られるのではないか？

もしかして、裏設定として、

「青い惑星」は自然に出来た自然環境ではなく、進んだ科学文明に
よつてデザインして作られた人工の世界だったのかも知れない。
もつと考えれば、

「青い惑星」もかつては地球のように進みすぎた物質文明によつて
一度は滅び掛けたのかも知れない。（地球人にとって過酷な大気
であることから推測）そうして悪化した環境に適応した「強靭な自
然」を遺伝子操作して作り出し、人類自らも「アバター技術」によ
つてあの大きくて強くてしなやかな肉体美溢れる理想的な体へ「転
生」したのかも知れない……

とまあ、それくらい深読みの出来る豊かな世界観が作り込まれてい
ると思うのです。

そうするとあのラストも単純なめでたしめでたしと言つのとは違つ

た感慨があるでしょう？

不自由な体から新たな理想の肉体へ転生する主人公の姿から、「アバター」は理想の「フランケンシュタイン」物語とも考えられるわけです。

「青い惑星」の世界観は現行人類の理想郷であり、人類の新たな未来への旅立ちを指さし、一方で我々現行人類の終焉を示唆した、「単純なハッピーエンド」ではない結論を表していると思うのです。

どうです？もう一度観たくなりましたか？

映像ももちろん素晴らしいですがストーリーも、深読みすると、奥深い面白い映画なんですよ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0201/>

「アバター」再考

2010年10月9日06時26分発行